茨戸河畔の雪とけて 長き眠りにとざされし た。 とかはん ゆき とまれしの蝦夷島 喜び笑ふ声すなりょうこ とく待ちわびし水の子の

岩燕は去りて風熱きっぱめ さ かぜあつ 羊も寄りて草を食むしばし憩はむ土手のよ 運河一発引き抜きて夏たけなはの候となる し憩はむ土手の上

> こよなき季節訪れぬきまれる。 光のどけき茨戸河いつか炎暑の日はゆきていっか炎暑の日はゆきて 心ゆくまで漕がむかな

みぎわの木々は枯れはてて 霜結ぶ朝艇出す 河霧深くたちこめて 河霧深くたちこめて 陽はくれないに没したり 夕練習終へるころゆうべれんしゅうお 秋の気深くなりにけり

まるか 手稲は紅く空高される かい先近くぼらはねて Б. ζ

また来む年の幸思へいざわが友よ胸深くいざわが友よ胸深くいざわが友よ胸深くいがある。 北風すさび雪は舞ひきたかぜ

惜しみて漕がむ残る日々をもま近となりぬれば